

→

・今後の展望・

在院日数の短縮などの理由で、医療処置が多かったり、または、病院ではもう治療することが無いと言われたりして、不安を抱えながら、在宅生活を送らなくてはならない方が増えています。そんな時に、私たちがいち早く訪問し、不安の解消と、在宅

生活の快適さを提供させていただきたいと思えます。地域の開業医の先生との連携も、スムーズに行なえていますので、今後も継続し、皆様に満足していただけるよう努力してまいります。



◇北アルプス訪問介護ステーション◇

■ サービス提供責任者 平林 美代子

北アルプス訪問介護ステーションは、介護老人保健施設白馬メディアに併設されています。自然豊かなこの土地で雄大な北アルプスの山々を眺めながら、白馬村、小谷村、大町市の平地区、美麻地区と訪問させていただいています。春夏秋の優しい自然環境から一転、冬は降雪量が多く運転には厳しい条件になり雪の山道は緊張します。しかしながら私たちの相棒の青いパジェロミニは力強く安心して運転し訪問できます。今年度の目標のひとつとして「ご利用者、ご家族に安心、安全なサービスを提供できるよう努力する」と掲げました。最近訪問して思うことは、ご利用者だけでなく介護者もヘルパー訪問を待っていてくださることです。ケアが終了すると介護者が自分の心の内をぶつけてこられます。「私はこんなに頑張っている」とか「ひとりで介護していると思うと苦しくなるけど、ヘルパーさんが来てくれるとひと

りではないと安心できる」などです。介護者がホッと一息ついてくださることが大変嬉しく思います。これからも、ご利用者、ご家族と心の触れ合いを大切に訪問介護をしていきたいと思っています。



いつも優しく

社会医療法人 城西医療財団
広報文化委員会 編集

今号は当財団が運営する「訪問看護ステーション」「訪問介護ステーション」について、1回目（17号）に続き、2回目の施設紹介をお届け致します。

訪問看護ステーション・訪問介護ステーションについて

在宅療養におけるサービスのひとつとして、『訪問看護』『訪問介護』があります。当財団にも訪問看護ステーションと訪問介護ステーションがあります。高齢者及び病気や障害をお持ちの方が住み慣れた地域で安心して療養生活を送れるように、訪問看護師・リハビリの専門スタッフ・訪問介護員がご自宅へお伺いして様々な支援をいたします。健康な時と違って、病気や障害、加齢により今までのような生活ができなくなった時、ご本人のみならずそのご家族にとっても不安が非常に大きいと思えます。そんな時に専門家である私たちがお役に立てると思えます。

今号は、いつも優しく17号に続き、他のステーションの紹介を致します。
(訪問看護・訪問介護について詳しくは、当財団ホームページ<http://www.shironishi.or.jp>をご覧ください。)

【目次】：

- 「訪問看護ステーション
- ・「訪問介護ステーション」について P1
- 「安曇野北訪問看護ステーション」 P2
- 「安曇野北訪問介護ステーション」 P3
- 「安曇野東訪問看護ステーション」 P3~4
- 「北アルプス訪問介護ステーション」 P4

《城西医療財団 理念》

私達は、病める人、障害を持つ人にいつも優しく、最良の医療サービス及び福祉サービスを一体的に提供する。また、心身の健康保持・増進を志向する人に最良の保健サービスを提供する。利用者を身体的、精神的、社会的、そして倫理的に診療し、科学的根拠に基づいた治療を行う。

いつも優しく

社会医療法人 城西医療財団
〒390-8648
長野県松本市城西1-5-16
TEL 0263-33-6400
FAX 0263-33-9920

ホームページ
<http://www.shironishi.or.jp>

◇安曇野北訪問看護ステーション◇

■ 所長 長井 良江

私どもの訪問看護ステーションは、看護師とリハビリスタッフの応援を得てお家で療養されている皆様に大きな安心をお届けしようと活動しています。そこで、本誌をご拝読されている皆様に、訪問看護(ナース)の仕事について、ある1日をご紹介します。

＜ナースの仕事＞

8:30 出勤

ユニホームに着替えて訪問の準備「体温計に血圧計」「今日も1日頑張るぞ!!」

9:00 ミーティング

ご利用者の様子を報告、みんなの意見を聞く訪問車に乗り込んで、いざ出発! 今日4件!

10:00 1件目

1週間の体調を確認しながらアドバイス。お薬は飲めているか?病院で先生ときちんと相談が出来ているか?じっくり膝をつき合わせて容態をお聞きしつつ心のケアも。

11:30 2件目

ご自宅で酸素吸入を受けながら生活しています。呼吸が楽になるよう一緒にリハビリをしたりご家族から心配事などお聞きします。また、かかりつけの先生に様子をお話します。

13:00 3件目

小さなお子さんも訪問します。子育てしながら看病をすることはとても大変なことです。お母さんが疲れきっていないか?不安がたまっていないか、いろんなところに目を向けてアドバイスをします。

14:30 4件目

今日最後のご利用者の所へ。「待ってたよ」ご家族も笑顔で迎えてくれます。

ご利用者もご家族も最近あったこととお話してくれます。

耳を傾けながら処置を着々とすすめていきます。次回の訪問日まで無事に過ごせるようアドバイスをします。

16:00 帰途

事業所へ戻ります。今日あったことを仲間と相談したり、カルテに記録したりしま

す。かかりつけの先生や、ケアマネジャーに報告のため電話をします。

17:15 退勤

明日の準備をして仲間とおわかれ。『お疲れ様でした!』

～こんな毎日をご利用者やご家族と共に歩んでいます。お家で療養されている方々の一番身近な応援者でありたいと考えています。どうぞお気軽にお声をかけてください～



◇安曇野北訪問介護ステーション◇

■ 訪問介護員 越山 佳代子

私たちの安曇野北訪問介護ステーションは、安曇野市のほぼ中心地である豊科に位置し、連携施設である訪問看護ステーションと同じ敷地内にあります。

現在スタッフは8名在籍しており、共に学び合いながら努力をしています。平成13年6月の開設以来、スタッフ同士のコミュニケーションを大切にして、何でも報告・相談し、ご利用者・ご家族に寄り添った質の高いサービスをしていきたいと考えています。また、日々の訪問では、排泄、食事、入浴、移動等を行なう身体介護や、調理、掃除、買物、洗濯等を行なう生活援助を行なう中で、ご家族にも安心していただけるよう努めています。

私たち介護員が、いつでも「おひさま」のようにとはいきませんが「ひだまり」のような、あたたかくやさしい対応が出来るようになりたいと思っています。そんな毎日の中で、心に残る体験がありました。自宅において看取りのその時まで寄り添い、介護員に心をくだいてくださったご利用者がいました。

まだ会話が辛うじて出来ていた時、生まれ故郷の北信濃の思い出を聞かせてくださいました。しばらくして、その時が近づいてきたある日、おむつ交換をした後に、先

日行ってきた、北信濃の今の様子を伝えたところ、乏しくなっていた表情に笑みが浮かび、喜んで聞いてくれているのがわかりました。ご自分が話したことも憶えていないだろうと思っていたところが、思いがけない反応にこちらの方が驚きました。私たちにしてみれば、日常のたわいもない会話に思いますが、人生の末期に介護員と一緒に過ごした時間がどれ程かけがえのないものか…とあらためて感じました。

これからも、一回一回の訪問を大切にして、ご利用者やご家族が安心して過ごせるよう、頑張っていきたいと思っています。



◇安曇野東訪問看護ステーション◇

■ 所長 小林 政子

安曇野市明科 総合福祉センター『あいりす』の一室に、私どもの訪問看護ステーションがあります。この建物は、安曇野市の運営で、一部をお借りしてステーションとして使わせて頂いております。私たちのステーションの他に、安曇野市社協さんのヘルパーステーションとデイサービスもあり、複合施設になっています。

・ステーションの特徴・

利用者の年齢は、乳児から90歳を超える高齢の方まで、50人前後の利用者を訪問しています。看護師3名、作業療法士1名の少人数で、安曇野市・生坂村・旧四賀村をエリアとして、広い範囲を担当しています。

複合施設の中にあるステーションなので、連携はとりやすく、運営母体はそれぞれ違う事業所ですが、情報の共有をしながら、地域全体で支えあっています。